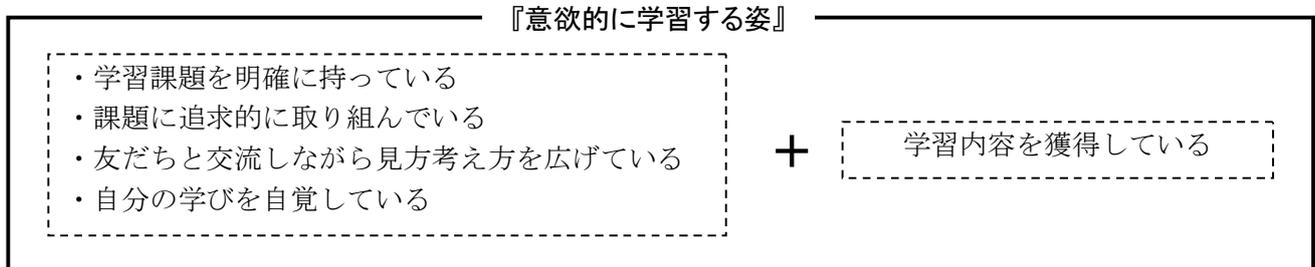
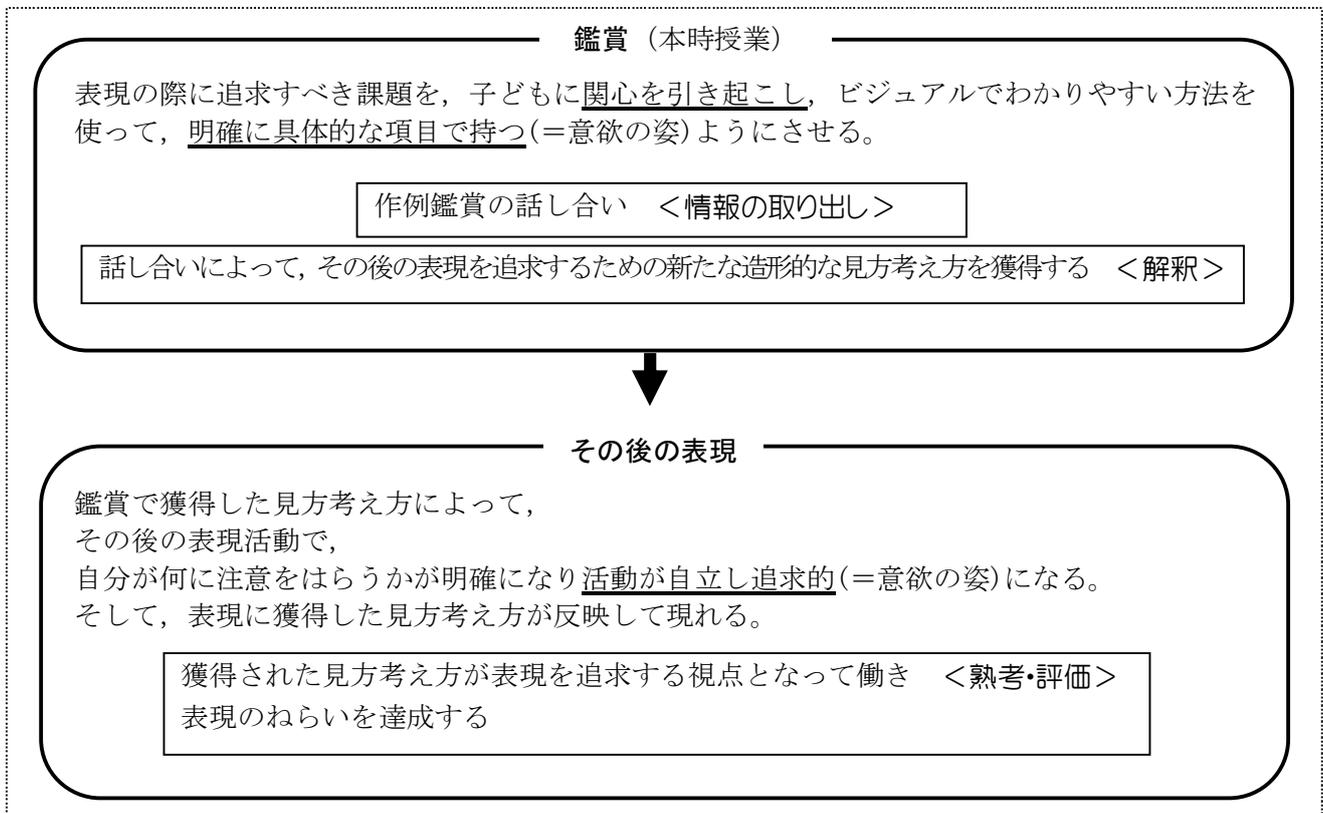


A-1 事例の概要

本校は確かな学力の育成を図るために、学校研究として「学ぶ意欲を高めるために」を主題にして取り組みを始めた。これは簡略に述べると、子どもが課題に追求的に取り組む姿の中で、学習内容を獲得する授業のあり方の研究であり、次のような学習中の姿と学習内容の獲得が見られることを探求している。



そこで、図画工作科の本題材において、次のことをねらって実践してみた。



「意欲的な学習の姿」を「表現を追求する姿」ととらえて授業に臨んだ。本時における作例鑑賞の話し合い<情報の取り出し>が、その後の表現を追求するための新たな造形的な見方考え方を獲得する<解釈>こととなり、次時からは、獲得された見方考え方が表現を追求する視点となって働き<熟考・評価>、表現のねらいを達成するかという研究となる。したがって考察することは、提示作品に対する子どもの気づきの内容、話し合われたこと、話し合いからの子どもの見方考え方であり、主にワークシートや話し合いの記録をもとに洗い出す。そして話し合い後の次時からは、表現における追求の状態を対応させて、認識と表現の相互関係から『意欲的に学習する姿』が成立したかを考察した。一人一人のデータから達成の姿を分類し、学級人数に対する割合にして数値化するなどして、全体的な学びの様相をできるだけ客観的にとらえようとした。